

みどり認定

有機農業

農薬・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

株式会社田中農園（千葉県袖ヶ浦市）



枝豆畑の前で左が田中代表と弟の田中副代表

【生産概要】

- ・農地面積：約20ha（減化学農薬・減化学肥料）
- ・栽培品目：ダイコン（11月～5月）
枝豆（6月,7月,10月）
落花生（8月,9月）

【経営概要】

- ・農業は昭和の初め頃から続き現在で4代目
- ・「みどり認定」取得
- ◇代表：田中佳洋（兄）、副代表：田中将洋（弟）
- ◇正社員4名、パート30名（男性12名、女性18名）

【販売概要】首都圏の卸売・仲卸売業者、JA、加工業者等



■ 取組の特徴・栽培技術や工夫していること

- ・田中農園では、だいこんを約20haで作付けしておりますが、収穫後、土壌の状況に応じて、えん麦やマリーゴールドを栽培し、すき込みを行っています。これらは緑肥や線虫対策として作付けしており、肥料や農薬の低減につながっています。
- ・肥料は堆肥を使用することで化学肥料を慣行栽培の50%減で栽培しています。また、土壌分析を行うことで、無駄な施肥を減らせ、結果的に肥料等のコスト削減も可能になります。
- ・枝豆と落花生の栽培には生分解性マルチを使用しています。
- ・当農園では環境負荷低減に取り組む「みどり認定」を受けました。今後も推進を図っていきます。

■ 取組のメリット

- ・生分解性マルチの使用は、農業用プラスチックの排出削減や、労働時間を短縮することができ、その時間をほかの作業に有効活用することができています。
- ・マリーゴールドの栽培により土壌消毒用の農薬を減らすことができ、環境に負荷が少ない栽培ができています。
- ・えん麦やマリーゴールドの栽培は、土質の改善に役立ち有機物を補給することで、化学肥料の使用量削減につながります。

■ 今後取り組みたいこと

- ・需要に対し供給量が追いついていない状況のため、環境負荷低減の取組を基本に供給量を上げていきたい。



大根ハーベスターによる収穫作業